

## 2018年4月2日安祥城址

安祥城址の周りは、安城市歴史博物館となっていますが、安祥城があった場所は、現在、大乘寺というお寺となっており、お寺の前の石碑だけがここに、安祥城があったことを記しています。

この地が、歴史に記憶されるのは、信長の庶兄・織田信広が守るこの城を、大原雪斎率いる2万の大軍で攻め、城代の信広を捕縛し、織田家に奪われた竹千代（徳川家康の幼名）と人質交換した結果、竹千代は今川義元の人質になり、駿府で育てられる事になりました。

安祥城は織田家と松平・今川家と何度も合戦になっているようで、この第五（4）次安城合戦の時には、信長・信広の父・織田信秀は病に伏せていて救援することができなかったようです。この地を今川義元が織田から奪還したことにより、今川家の三河支配は確実なものとなり、次は尾張へ、およそ10年後の桶狭間の戦いに歴史は繋がっていきます。桶狭間の戦い後は、織田・徳川間で清洲同盟が結ばれ、この地は前線としての価値が薄れ2年後に廃城されました。

歴史にifもしもは禁物ですが、後の天下人・徳川家康の生涯に影響を与えた地であることは間違いありません。